

京都府京丹後市における 住民主体の取組と 住民の定住意向の分析

農業・農村領域 國井大輔・田中淳志

報告内容

1. はじめに
2. A地区における様々な取組
3. 住民の定住意向の分析
4. おわりに

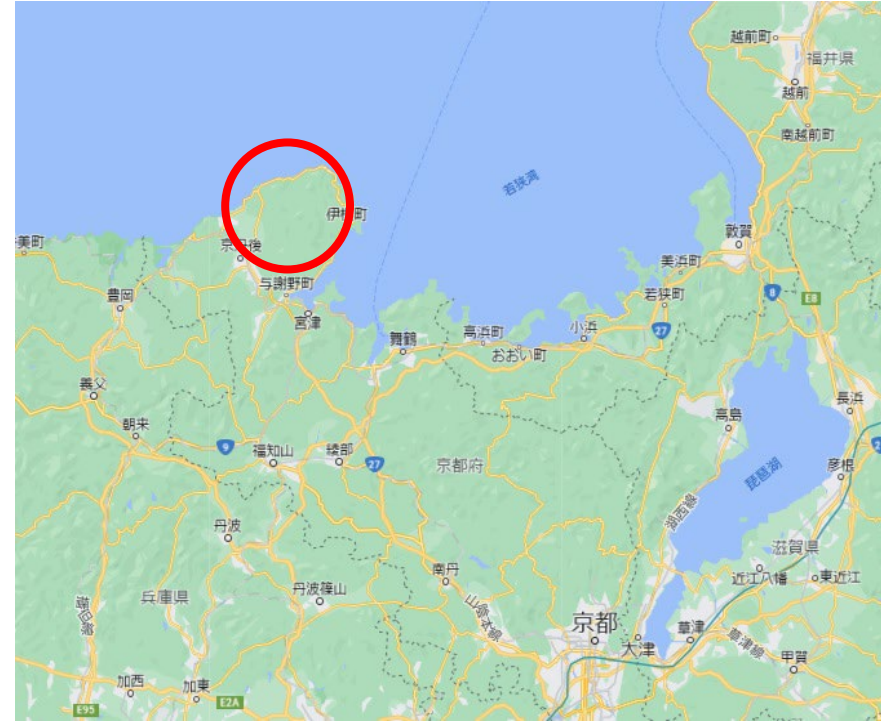
はじめに

京丹後市



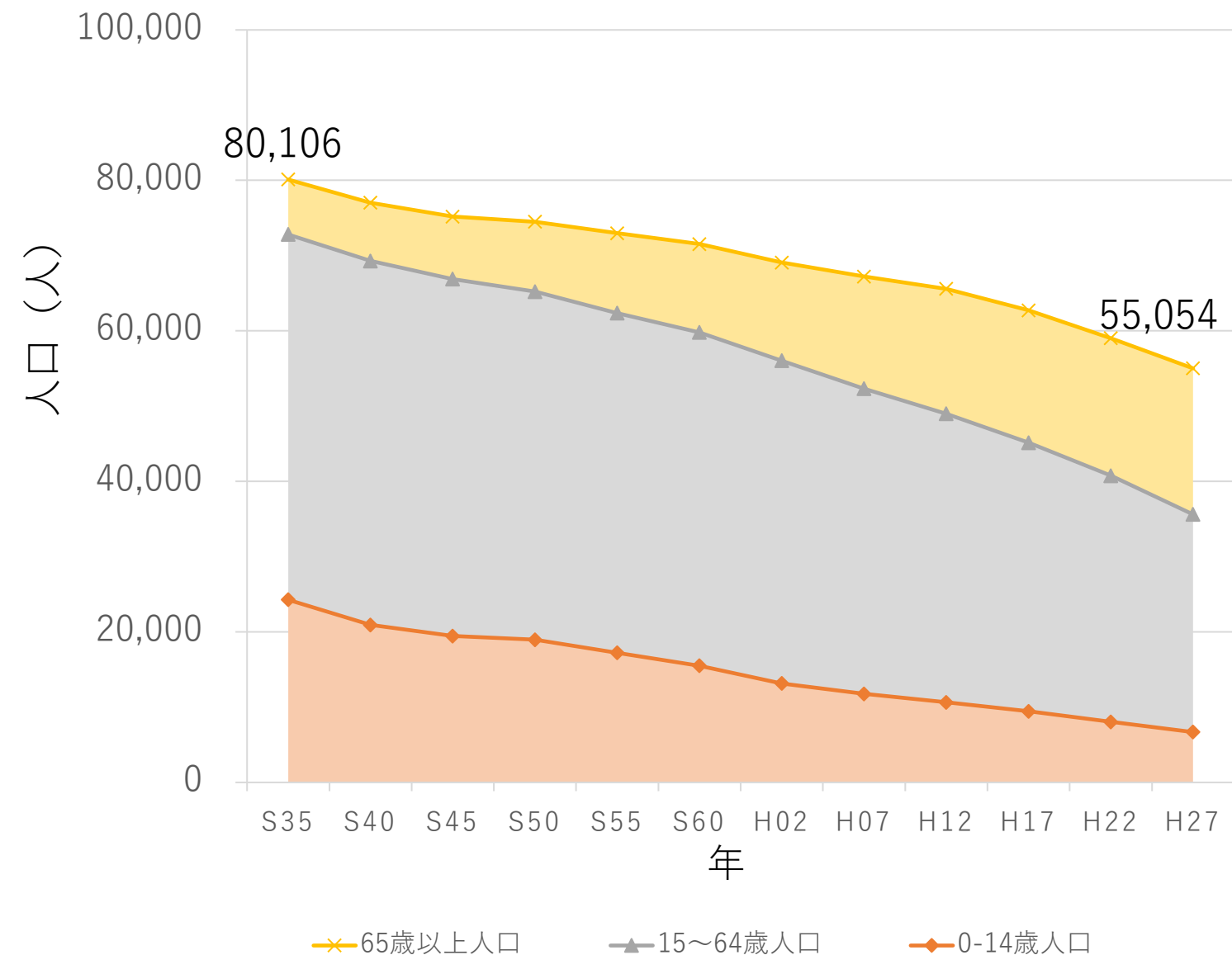
京都府北部の丹後半島先端部にある 6 町が2004年に合併し京丹後市が誕生

京丹後市A地区



A地区は丹後半島北部に位置する 2 地域 1 4 集落からなる

京丹後市の人口増減



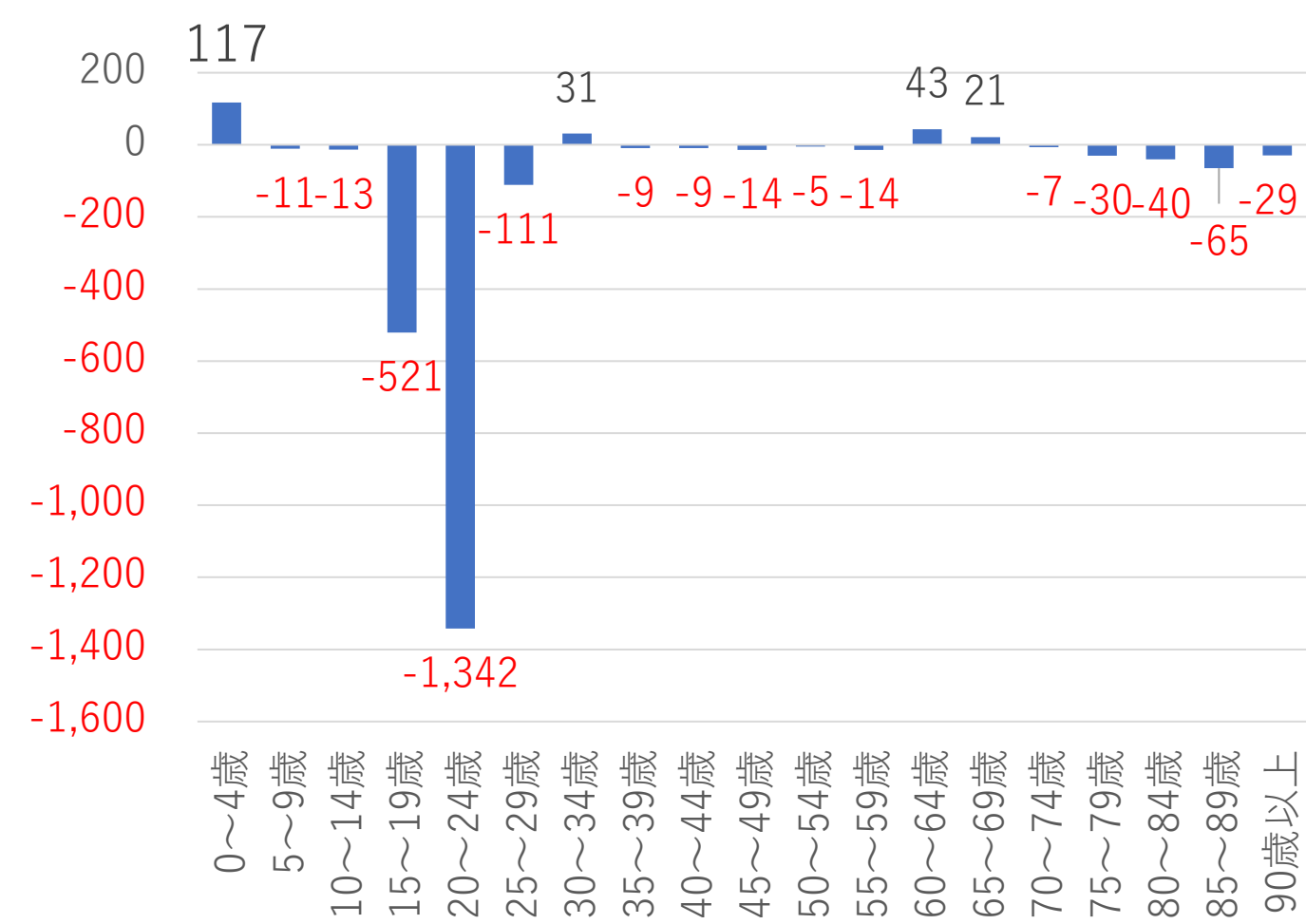
R2の人口は51,112人（国勢調査速報値）で5年前から3,942人減、マイナス7.2%。

調査毎に人口減が加速

（※H22→H27はマイナス6.7%。
H27→R2の日本全体ではマイナス0.7%）

内訳では、年少人口と生産年齢人口が減。

京丹後市の人口の社会増減

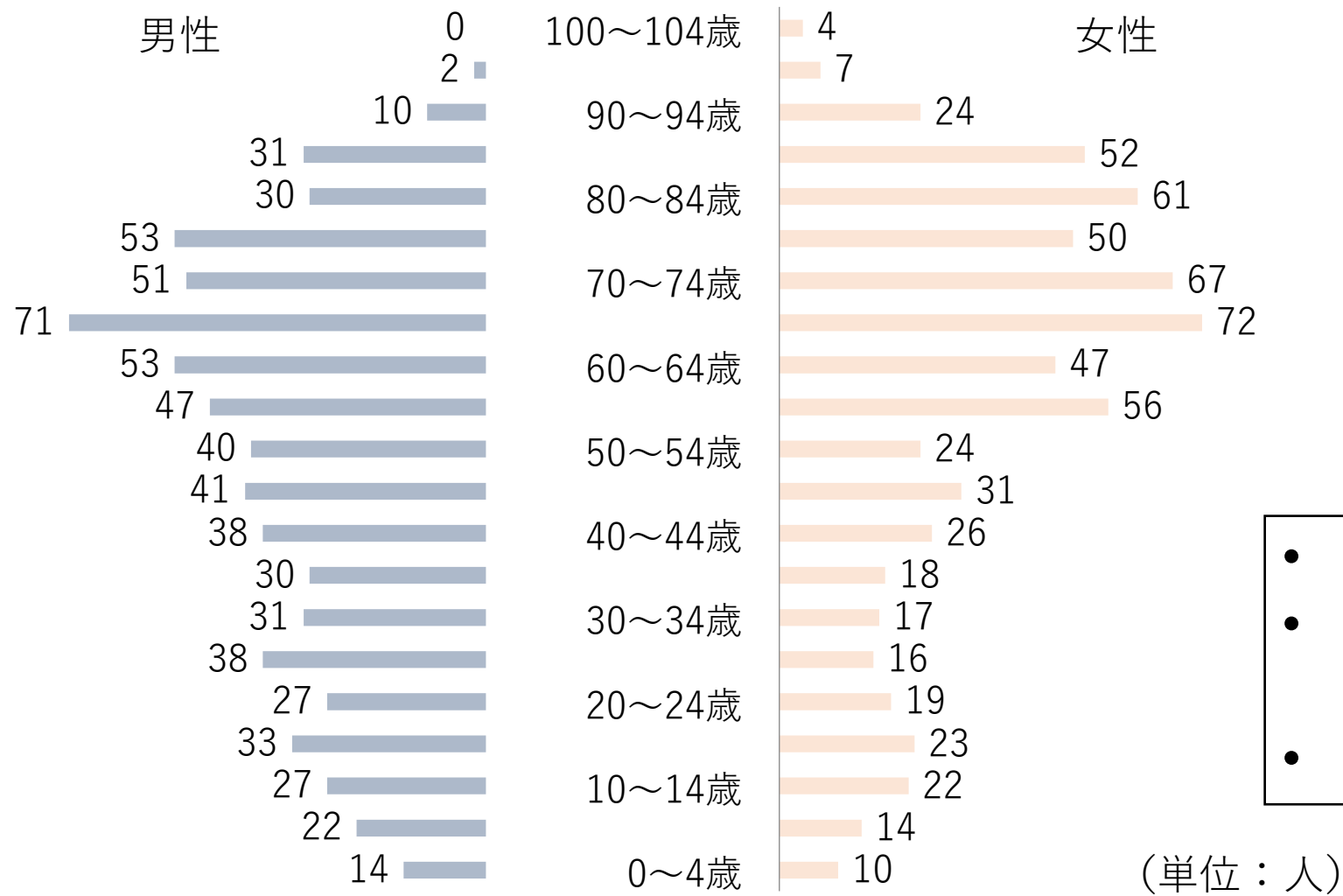


H 2 6 ～R 1 の人口増減をみると、

1 5 歳～2 9 歳の転出が顕著。
0 ～ 4 歳が増加。

住民基本台帳人口移動報告（総務省）第15－1表、第15－2表
住民基本台帳人口移動報告（総務省）第16－1表、第16－2表より作成
※これらの総務省調査はR1で終了

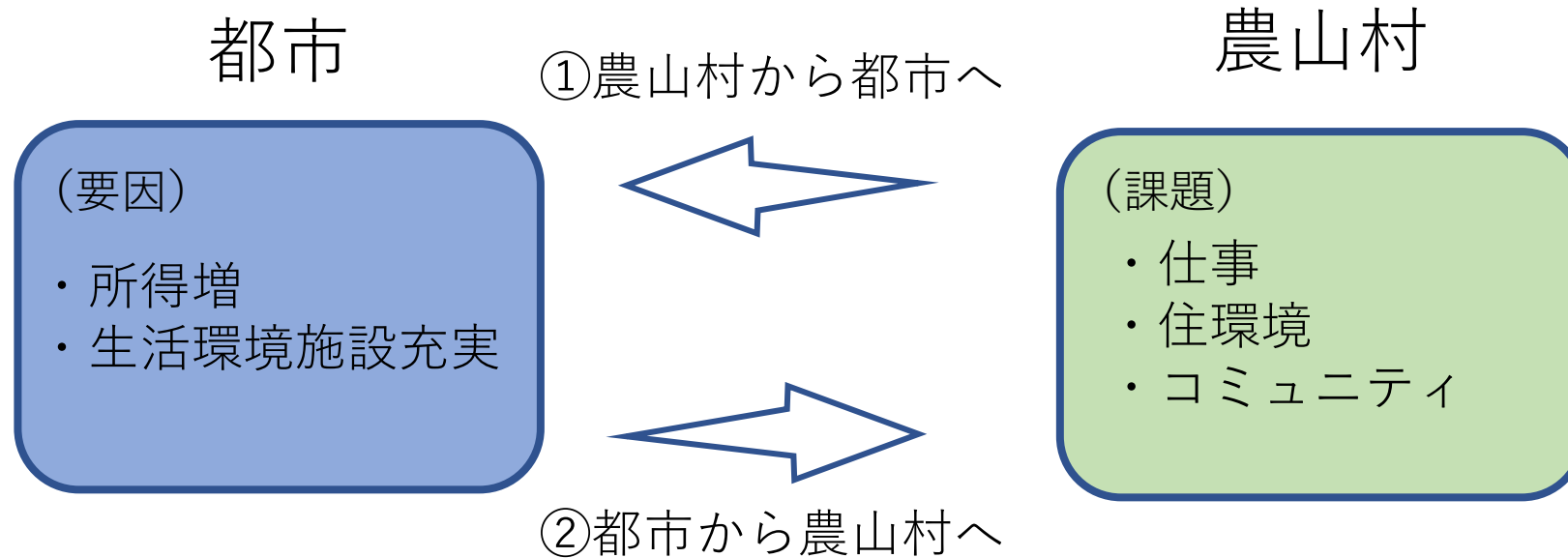
京丹後市A地区人口構成



- 人口構成は「つぼ型」
- ただし、20～30代の移住者は存在
- 10歳未満の子供たちも

A地区の人口構成（5 齢級）。住民基本台帳より（平成30年3月31日現在）
「富士山型」、「つりがね型」を過ぎ「つぼ型」の構成。65歳未満では男性、65歳以上で女性が多い

人口移動の要因に関するこれまでの研究



- 都市への人口移動研究（①）では、農山村と比べた所得格差、教育や医療などの生活環境施設の充実が要因に挙げられてきた。
- 小田切（2014）は農山村への移住の三つの課題として、「仕事」，「住宅」に加え，「コミュニティ」を指摘（②の矢印）。田園回帰の移住者が求めているものとも言える。実際に移住の際のコミュニティの重要性が指摘されている（岡崎ら2004；中西2008；西村ら2015など）。

➡ 農山村に住み続けるためには、どのような要素が必要か？

本研究の目的

A地区では、
これまで地域の課題を、**地域住民が主体**となって解決を模索

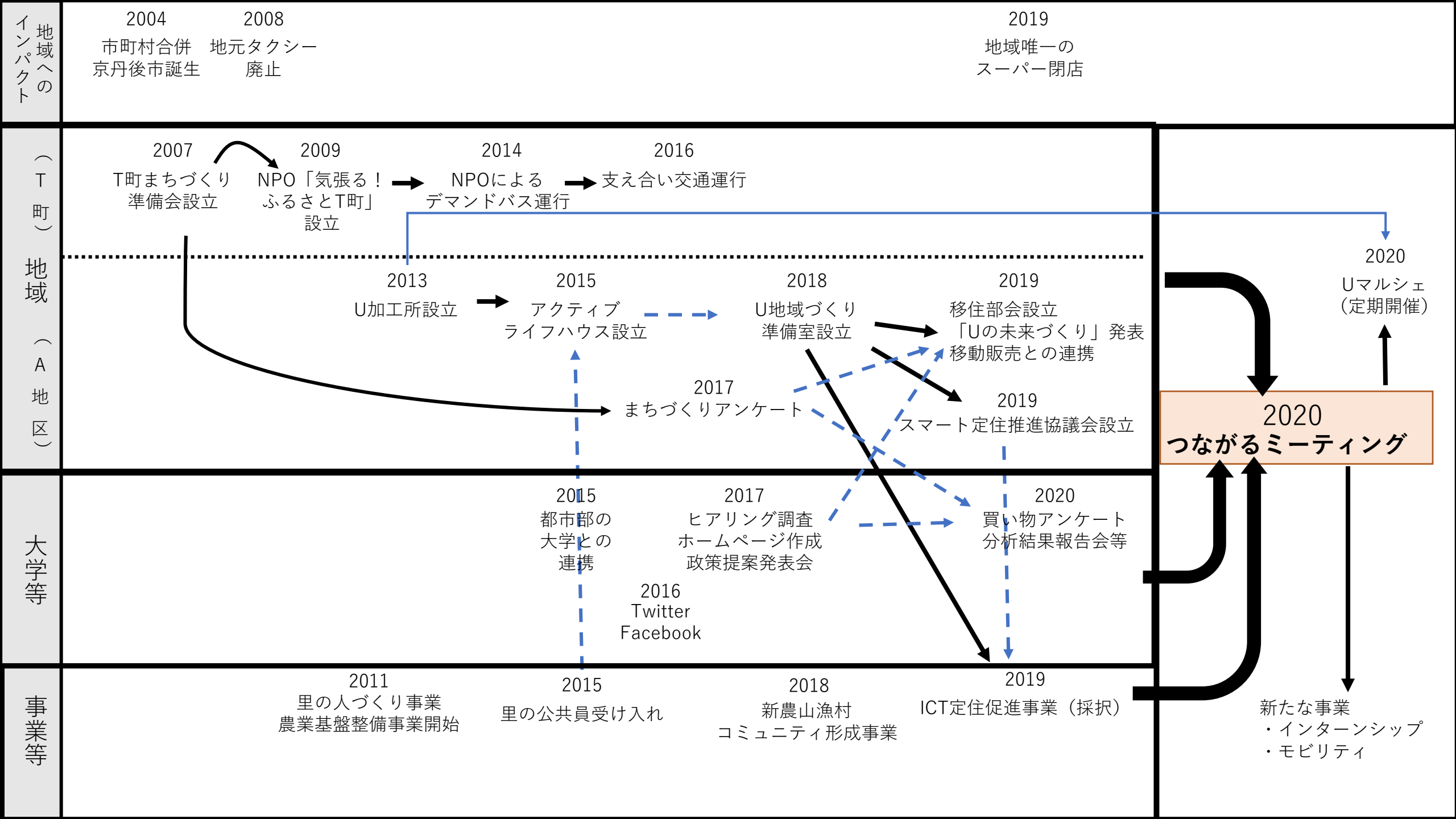
- デマンドバスの導入
- U社によるスマートフォンでの配車サービスの導入
- 地域食材を活用した商品開発や販売
- 都市部の大学と連携した地域活性化の取組

既存資料を見る限りでは、住民主体のボトムアップ的な取組が活発な一方で、活動の中心は主に60代以上の住民と地域外の大学関係者。**地域の若い世代の関与が見受けられない。**

- A地区におけるこれまでの取組の整理
- 地域住民の定住意向の分析

A地区における様々な取組

- スマートフォンアプリを使った住民タクシー
 - 保育園跡地を使った週1の金曜マルシェ
 - 週1の移動販売
 - 都心部の大学との連携
-
- ジョブアスインターンシップ事業（農林水産省）
金曜マルシェの運営、地元農家での出荷研修などを行う。
 - 多様なモビリティ導入支援事業（経済産業省）
高齢者移動手段の確保に向けた取組として、自動車に変わる移動手段として電動アシスト自転車の普及を目指す。



小括

- 市町村合併、タクシー会社撤退、スーパーの閉店などの問題に対して、地元住民でさまざまに対応。
- 地元だけでなく、大学との連携や、様々な事業を活用。
- 地域の様々な世代の住民、行政、大学等の外部団体、地域づくり組織を含む議論の場を設置。
- 「つながるミーティング」は、地域の課題抽出とICTを活用した解決策を検討することを主目的とし、従来のような区長や組織代表レベルでの議論ではなく、中学生から高齢者まで、幅広い年代の意欲ある住民が誰でも参加できる「場」を設けた。
- これにより、様々な取組につながる。

住民の定住意向に関する分析

「T町中学生以上全員まちづくりアンケート調査」

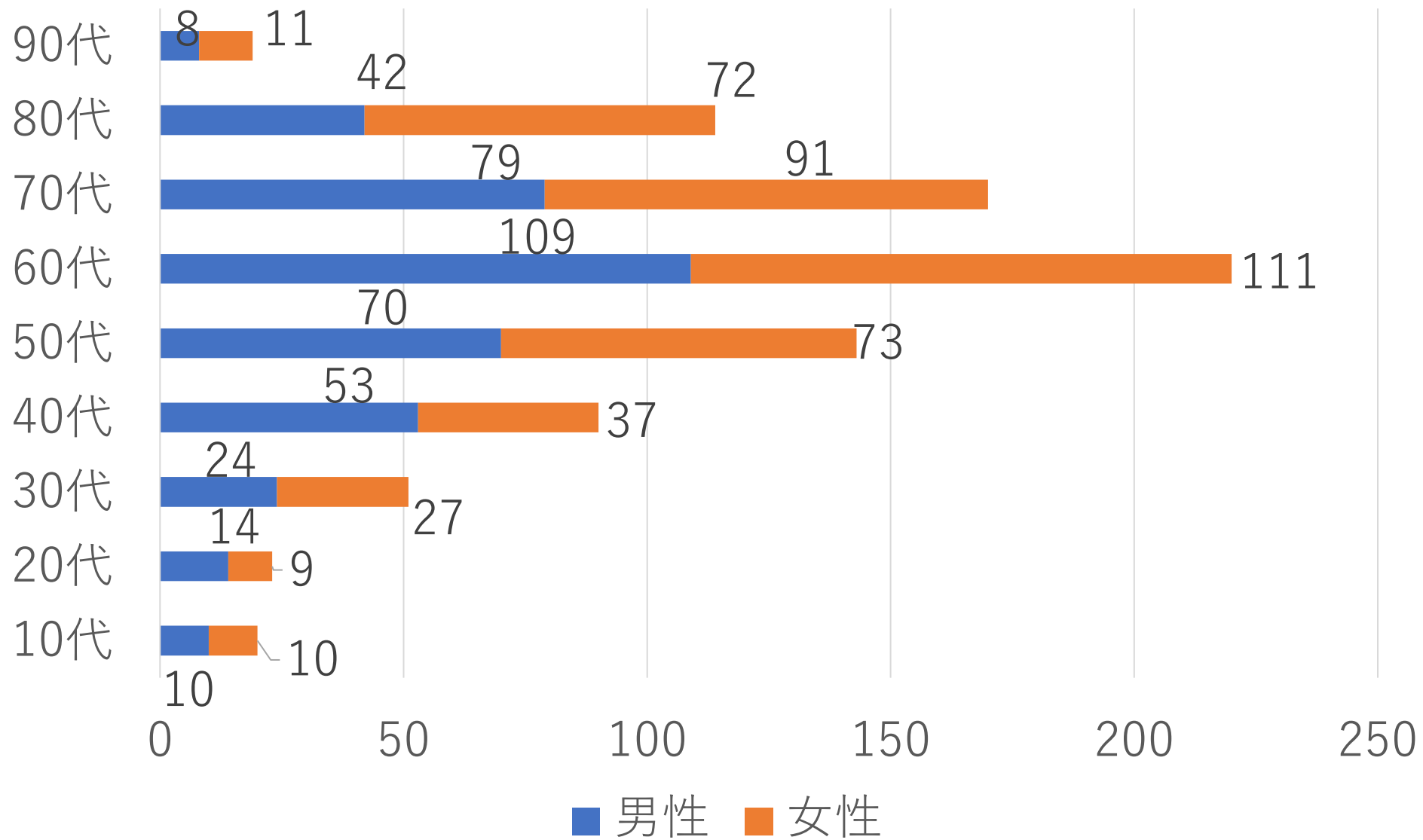
実施日	2017年10月～11月（提出締切：2017年11月10日）
対象	地域在住の中学生以上の全住民
配布枚数	1,081枚
配布方法	区長を通じて全戸配布。中高生については学校で配布
回収枚数	901枚（回収率83.3%）
回収方法	住民が区長へ提出、区長は市役所へ提出し市役所で集約
調査方法	無記名、選択制（一部自由記述あり）
実施主体	T町区長連絡協議会、T町まちづくり準備会

今後のまちづくりを考えるために[2017年11月に中学生以上の全住民に実施。](#)

アンケート中の分析に用いた質問項目設定

項目	内容
自身について	性別、年齢、世帯数、職業、居住年数等
生活全般について	生活の満足な項目及び困っている項目を選択、信頼できる者の有無、地区外への外出頻度、移動手段、買い物店舗名及び通院医院名を回答
地域活動・インフラについて	草刈り、防犯、祭りや行事、地域インフラ(道路、河川、水道等)等への満足度、不満度、重要度を各活動・インフラごとに選択、定住意思の有無
地域住民組織について	区長連絡協議会、民生児童委員会、婦人会等の各組織への個別意見記述、現在の参加状況及び今後の参加意思
全般的な意見	意見、要望、提案等の記述

- 既存の知見を踏まえ、住民の被説明変数に「定住意志の有無」、説明変数に「仕事」、「生活」、「コミュニティ」に関する項目を採用したモデルを作り、ロジスティック回帰分析等を実施。



アンケート回答者の年齢と男女数

結果

目的変数＝住み続けたくない(=1)

説明変数	近似標準化係数	オッズ比	VIF
年齢(順序変数)	-.393**	.548**	1.632
家族人数(順序変数)	.017	1.026	1.332
居住年数(順序変数)	-.103+	.704+	1.232
健康に関すること	-.112	.574	1.407
介護に関すること	.005	1.024	1.341
子育てに関すること	-.050	.701	1.485
将来の進路(進学・就職)のこと	.065	1.584	1.429
仕事に関すること	-.065	.711	1.470
食事づくり洗濯ごみ出しなどの日常生活のこと	.149*	4.179*	1.141
庭作業や電気器具・家具の修理などの家庭での軽作業のこと	-.064	.548	1.088
農地山林の維持管理のこと	-.233*	.304*	1.267
日常的な相談をする相手がいないこと	-.002	.978	1.269
看病や世話をしてくれる人がいないこと	.019	1.175	1.379
跡継ぎがいないこと	.064	1.492	1.203
緊急時の相談先になってくれる人がいないこと	.038	1.510	1.280
買い物通院などの移動に関すること	-.080	.658	1.163
地区の活動や近所づきあいに関すること	.215**	4.458**	1.131
災害時への備えや避難に関すること	.003	1.019	1.170
有害鳥獣(さる、いのしし、くま、しか、たぬき等)に関すること	-.085	.652	1.259
特にない	-.087	.353	1.165
信頼できる人いない	.209**	14.098**	1.147
R^2	.444**		

表. ロジスティック回帰分析の結果（[仕事、生活、コミュニティ全般の不安点、困っている点と、定住意志との関係](#)）。** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

※オッズが1より大きいと発生する確率が発生しない確率より大きいことを、逆に1より小さいと発生しない確率が発生する確率より大きいことを意味する。

結果

目的変数＝住み続けたくない(=1)

説明変数	近似標準化係数	オッズ比	VIF
年齢			1.632
家族人数			1.332
居住年数			1.232
健康状態			1.407
介護状態			1.341
子育て状況			1.485
将来の生活			1.429
仕事状況			1.470
食事・生活			1.141
庭作業			1.088
農地・山林			1.267
日常的活動			1.269
看病や介護			1.379
跡継ぎの有無			1.203
緊急時の対応			1.280
買い物			1.163
地区の状況			1.131
災害時の対応			1.170
有害鳥獣			1.259
特になし			1.165
信頼できる人			1.147

- **年齢**が高くなるほど、「住み続けたくない」にはマイナスに有意な影響を与える。
- 食事づくり、洗濯、ゴミ出しなどの**日常生活**のことに不安や困っていると、「住み続けたくない」に有意な影響。
- **農地山林の維持管理**に不安や困っていると、「住み続けたくない」にはマイナスに有意な影響。
 - 土地に対する意識が高いと推察。
- **地区の活動や近所づきあい**に不安や困っていると、「住み続けたくない」に有意に影響。
 - 特に60代に定住したくないとの回答者が多い。
- **信頼できる人がいない**と回答した住民は、「住み続けたくない」に有意に影響。

表. 回帰分析の結果（仕事、生活、コミュニティ全般の不安点、**困っている点と、定住意志との関係**）。** p < .01, * p < .05, + p < .10

※オッズが1より大きいと発生する確率が発生しない確率より大きいことを、逆に1より小さいと発生しない確率が発生する確率より大きいことを意味する。

ロジスティック解析の結果



- 「信頼できる人いない」から「食事づくり洗濯ごみ出しなどの日常生活のこと」、「地区の活動や近所づきあいに関すること」、「農地山林の維持管理のこと」に不安を感じるのか？あるはその逆に、不安を感じてから信頼できる人がいないと思うのか？
- **アソシエーション分析**：AとBを任意の事象として、「もしAならばB」というルールを検証する。そのために以下の「支持度」「期待信頼度」「リフト値」を用いる

※アソシエーション分析の例として「おむつとビールの関連性」

スーパーでおむつを買う男性の80%がビールと一緒に購入するデータがあり、男性全体でビールを購入する割合2.3%より高く、おむつ購入→ビール購入という関連性

アソシエーション分析による分析結果

不安・不満点	支持度 $P(A, B)$	期待信頼度 $P(B)$	信頼度 $P(B A)$	リフト値 $P(B A) / P(B)$
食事・洗濯と信頼	0.007	0.067	0.176	2.635
地区活動と信頼	0.018	0.299	0.471	1.576
農地・山林と信頼	0.012	0.134	0.324	2.416

A : 「信頼できる人いない」

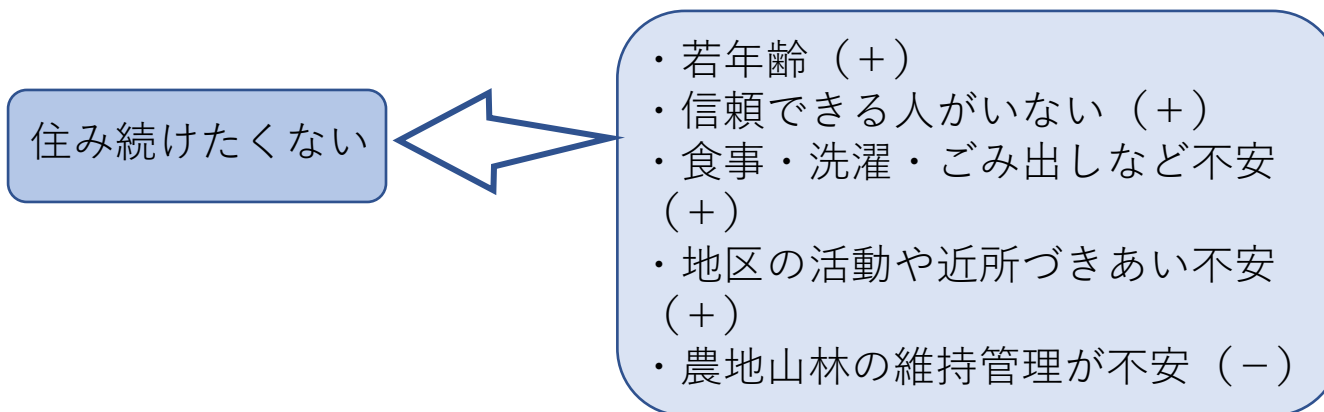
B : 「食事づくり洗濯ごみ出しなどの日常生活のこと」
「地区の活動や近所づきあいに関すること」
「農地山林の維持管理のこと」

リフト値が1以上であればAならばB又はBならばAの方向性を強く示唆する

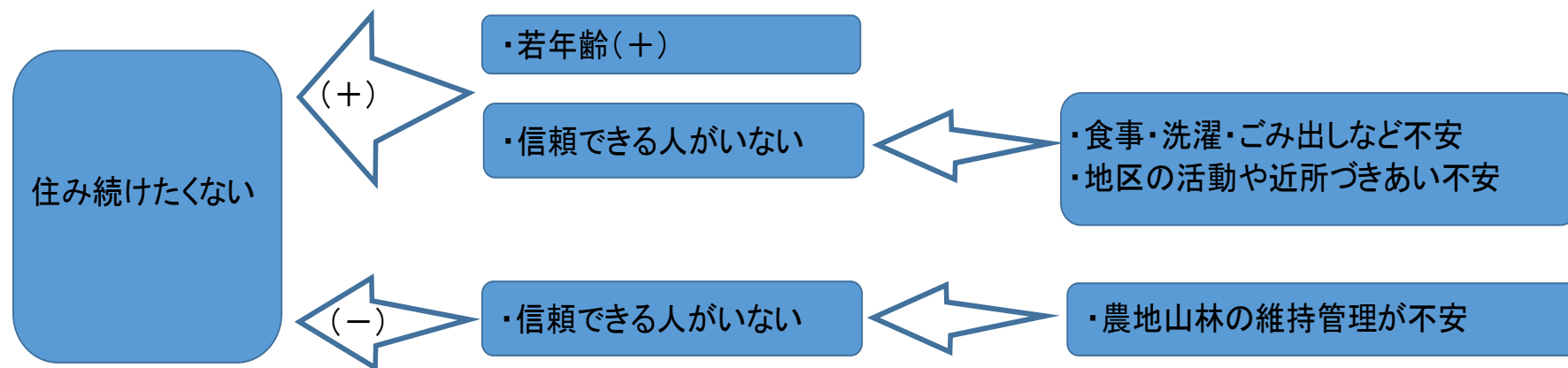
- 「食事づくり洗濯ごみ出しなどの日常生活のこと」、「地区の活動や近所づきあいに関すること」、「農地山林の維持管理のこと」に不安があるなら、地域に「信頼できる人いない」と回答する傾向

小括

アンケート調査結果のロジスティック回帰分析からは



と思われたが、アソシエーション分析を組み合わせると



である可能性が示された。

おわりに

- A地区は、地元住民を中心に、様々な事業の獲得や大学と連携することで、地域の課題解決を様々に取り組んできた。
- 様々な世代を巻き込んだ議論の場「つながるミーティング」が作られ、さらなる活動のきっかけになる。
- 地域に「住み続けたくない」という非定住意思には、信頼できる人がいるか否かが重要なポイントであることが示唆。
- その背景には、生活面や地域コミュニティへの不安、農地や山林の維持管理への不安などが影響していると考えられる。



ICTを活用した地域の課題解決においても、世代を超えた議論の「場」の形成や、住民意識の具体的な分析による課題整理が重要であると考えられる。



ご清聴ありがとうございました。

本調査を実施するにあたり、A地区における協議会関係者の方々にはヒアリング調査へのご対応、様々な資料の提供等大変お世話になりました。また、大学関係者の皆様にもヒアリング調査や資料とりまとめにご協力いただきました。御礼申し上げます。

文献

- 小田切徳美（2014）「「農村たたみ」に抗する田園回帰」『世界』 2014年9月号：188-200.
- 江崎雄治（2007）わが国における近年の人口移動の実態－第5回人口移動調査の結果より－（その2）地方圏出身者のUターン移動
- 京丹後市（2019）京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 高橋愛典・野木秀康・酒井裕規（2017）「京丹後市の道路公共交通政策」『商経学叢』 63(3)：77-99.
- 棚田裕二・大竹晴佳・畑本英子・佐藤伸隆（2016）「中山間地域における地域住民の福祉ニーズ調査研究－B市C地区における福祉に関するアンケート調査から－」『新見公立大学紀要』 37：167-174.
- 丹後暮らし探求便（2022）基本情報（2022年4月1日取得 <https://tankura.com/basic-info/>）
- 農林水産省（2022）わがマチ・わがムラ（2022年4月1日取得
<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/26/212/index.html>）
- 李壮・谷武・大貝彰・江本晃美・問藤辰則（2008）「中山間地域における定住意向別にみたまちづくりに対する住民意識の研究—新都市総合計画策定のための住民アンケート分析—」『日本建築学会東海支部研究報告書』 46：653-656.